

# 製品安全データシート



会社名 : 丸昌産業株式会社  
 本社住所 : 栃木県佐野市田島町 171  
 担当部門 : 新規開発事業部  
 担当者 : 吉川貴之  
 緊急連絡先 : TEL. 0283-22-1901 (昼間・夜間)  
 E-mail : kaihatu@marusyosangyo.jp  
 作成日 : 2013年2月21日

【製品名】	セルフェイスコート 金属用下地処理剤 PX-07
-------	-----------------------------

【物質の特性】	混合物
---------	-----

【成分及び含有量】	化学名	化学式	含有量	CAS番号
	酸化珪素	SiO <sub>2</sub>	4 - 6%	7631-86-9
	エタノール	C <sub>2</sub> H <sub>6</sub> O	94 - 96%	64-17-5

【危険有害性の分類】	分類の名称 : 引火性液体、急性毒性物質、腐食性液体 最重要危険有害性 : 引火性あり、腐食性あり 有害性 : 高濃度蒸気を吸入した場合麻酔作用あり皮膚に接触した場合弱い刺激あり 目に入ると角膜を侵し、視力障害を起すことがある 危険性 : 空気と混合した場合、爆発性混合ガスを生じる 空気より比重が重いため、地表に混合ガスが溜まる 引火時遠い距離でバックファイヤーが生じることがある 環境影響 : 水生生物に対して有害である
------------	---

【物理/化学的性質】	外観(色) : 薄白色透明 外観(性) : 液体 臭い : 特異な刺激臭 化学的性質					
	化学名	沸点	融点	引火点	発火点	爆発限界
						上限      下限
	エタノール	78.37℃	-114℃	13℃	439℃	19.0 Vol%      3.3 Vol%

<p>【応 急 処 置】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 眼に入った場合： 直ちに水で15分以上の洗眼後、医師の手当てを受ける。</li> <li>・ 皮膚に付着した場合： 水で洗い流す。</li> <li>・ 吸引した場合： 新鮮な空気のある場所に移し、鼻をかませ、うがいをさせる。</li> <li>・ 飲み込んだ場合： 直ちに水又は食塩水を飲ませて吐かせ、医師の手当てを受ける。</li> <li>・ 応急処置をする者の保護： 救助者は、有機ガスマスク、手袋、メガネを着用する。</li> </ul>
<p>【火 災 時 の 処 置】</p>	<p>消火方法：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初期消火では、砂や粉末消化剤を散布する。</li> <li>2. 大規模火災には、泡消化剤で空気を遮断する。</li> <li>3. 消火作業は、風上から行う。</li> <li>4. 消火作業時には、必ず保護具を着用する</li> <li>5. この製品周辺での火災の場合は、速やかに製品を安全な場所に移す。</li> </ol> <p>使用消火剤：</p> <p>乾燥砂、二酸化炭素、粉末消火剤、泡消火剤</p> <p>使用してはならないもの：水</p>
<p>【漏 出 時 の 処 置】</p>	<p>漏出処理：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業時には、保護具を着用する。</li> <li>2. 漏出範囲をロープなどで関係者以外立ち入り禁止にし、周辺全域を火気厳禁とする。</li> <li>3. 作業する人以外は、風上へ非難する。</li> <li>4. 作業は風上から行う。</li> <li>5. 容器から流出していれば、流出防止処置を直に行う。</li> <li>6. 作業の際には、適切な保護具を着用する。</li> <li>7. 作業の際には、消化剤を用意しておく。</li> <li>8. 土砂などで流出を堰き止め、水域への流出を防ぐ。</li> </ol> <p>漏出処理時に使用するもの：乾燥砂、おがくず、土、ウェス</p>

<p>【作業時の保護具】</p>	<p>作業上の保護具</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 有機溶剤用防毒マスク</li> <li>2. ゴム手袋</li> <li>3. ゴーグル</li> <li>4. 作業服（自己消火性能）</li> </ol>
<p>【取り扱い・保管上の注意】</p>	<p>取り扱い上の注意点：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 密閉された空間での作業時には、消火器を用意して換気を行いながら作業をする。</li> <li>2. 屋外の場合、風上から作業を行う。</li> <li>3. 床などにこぼしたら水で濡らしたウエスなどで拭き取り清掃する。</li> <li>4. 皮膚接触や吸入防止のため、保護具を着用する。</li> </ol> <p>保管時の注意点：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 気密性のよい密閉された容器で保管する。</li> <li>2. 高温及び凍結温度場所では保管しない。(5℃～25℃で保管)</li> <li>3. 直射日光が当たらない場所で保管する。</li> </ol>
<p>【暴露防止処置】</p>	<p>管理濃度：なし</p> <p>許容濃度：日本産業衛生学会 -なし ACGIH - エタノール；1000 ppm (TLV-STEL)</p> <p>設備対策：取り扱う前に、洗眼や洗浄できる水道、シャワーの位置を確認 その位置までのルートの確保</p> <p>保護マスク：有機溶剤用ガスマスク</p> <p>保護眼鏡：側板付き普通メガネ及びゴーグル</p> <p>保護手袋：ポリエチレン手袋</p> <p>服装：長袖、長ズボン</p>
<p>【安定性及び反応性】</p>	<p>安定性：通常条件では安定</p> <p>反応性：酸化剤と接触すると反応することがある</p> <p>避けるべき条件：日光、熱、酸化剤</p> <p>危険有害な分解生成物：亜硫酸ガス（亜鉛と接触時）、一酸化炭素、</p>

<p>【有害性の区分】</p>	<p>急性毒性：経口、経皮、吸入（蒸気） 区分外  吸入（粉塵・ミスト）：未分類</p> <p>皮膚腐食性：データなし</p> <p>刺激性（皮膚、眼）：エタノール 皮膚：なし ウサギ眼：区分 2B</p> <p>急性毒性(50%致死量等含む)：エタノール  ラット経口 LD<sub>50</sub> - 6.2-17.8g/kg  ラット吸入 LC<sub>50</sub> - 31600ppm/4H</p> <p>慢性毒性：データなし</p> <p>がん発生：IARC 及び NPT に記載なし</p> <p>変異発生：データなし</p> <p>生殖毒性：区分 1A（生殖能又は胎児への悪影響の恐れ）</p> <p>催奇形成：データなし</p> <p>その他：データなし</p>
<p>【環境影響情報】</p>	<p>分解性：エタノール - 微生物などによる分解性が良好と判断される物質</p> <p>蓄積性：データなし</p> <p>魚毒性：水生生物に有害 エタノール - オミジノコ LC<sub>50</sub>：5463.9mg/1・48H</p>
<p>【廃棄上の注意】</p>	<p>液体：スクラパーを具備した焼却炉で焼却処理を行う。又は地方自治体の条例に基づき、適切な産業廃棄物処理・処分業者に依頼する</p> <p>容器：空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に産業物処理・処分業者に依頼する。</p>
<p>【輸送上の注意】</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 直射日光を避ける</li> <li>2. 粗暴に取り扱わない</li> <li>3. 落下、転倒防止処置を行う</li> <li>4. 容器の破損に注意</li> </ol>
<p>【適用法令】</p>	<p>化学物質管理促進法：非該当</p> <p>毒物及び劇毒物取締法：非該当</p> <p>化審法：(1) -548（シリカ）</p> <p>消防法：エタノール；危険物第4種アルコール類水溶性液体（400L）</p> <p>労働安全衛生法：施行令別表第1危険物（引火性の物）  施行令第18条の2名称等を通知すべき有害物（政令第61号）</p> <p>危規則：第3条危険物告示別表第1引火性液体類</p> <p>航空法：施行規則第194条危険物告示別表第1引火性液体</p> <p>港則法：施行規則第12条告示引火性液体類</p> <p>国連分類：エタノール - クラス3（中引火点引火性液体）等級II</p> <p>国連番号：エタノール - 1170</p>

【引用文献】	<ol style="list-style-type: none"><li>1) 溶剤ハンドブック 浅井照三 他編 講談社 (1976)</li><li>2) 有機化合物辞典 有機合成化学協会編 (1985)</li><li>3) Dangerous Properties of Industrial Materials, 6th ed N. I. Sax 他編 Van Nostrand Reinhold Company (1984)</li><li>4) 14303 の化学商品 化学工業日報社 (2003)</li><li>5) Patty's Industrial Hygiene and Toxicology 4th Ed, (1994)</li><li>6) R. W. Kapp, et al., Regul. Toxicology Pharm. <u>23</u>, 183-192 (1996)</li><li>7) 化学物質ハザードデータ集 2 化学品検査協会編 第1法規出版発行 (1999)</li><li>8) Registry of toxic effects of chemical substances (RTECS) 2003 ed</li><li>9) Environmental Protection Agency (EPA)</li><li>10) 独立行政法人製品評価技術基盤機構化学物質安全性評価</li><li>11) 労働安全衛生法</li></ol>
【その他】	<p>記載内容のうち、全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容が変更を生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめることをおすすめします。尚、含有量、物理化学特性などの値は保証値ではありません。また、注意事項は通常的な取り扱いとしたものなので、特殊な取り扱いにはこの点のご配慮をお願いします。また、危険有害性の評価は必ずしも十分ではないので取り扱いには十分注意してください。</p>